京都大学	博士（　医　学　）	氏　名	勢島　奏子
論文題目	Ambivalent effects of highly estimated personal strengths on adaptive functioning and internalizing symptoms in non-clinical autistic females （他者から高く評価されるストレングスは、自閉特性のある女性の適応機能を高める一方で内在化症状も高める）		

（論文内容の要旨）

【背景】「自閉スペクトラム症(ASD)」は、既存の診断基準では女性が見逃されやすく、未診断女性への支援不十分が懸念される。一方、一般集団には、受診必要が差し迫るような不適応を呈さず経過する自閉特性の高い人々も存在するが、彼らの適応がどのような形で保たれるのか、その詳細な把握や性別の検討はされていない。本研究では、一般集団の自閉特性の高い人を対象に、ストレングスとして評価される個人の特徴に着目し、彼らの適応の状態とストレングスの関連を性別に探索することで、診断に至りにくい女性への前臨床段階での支援と介入の糸口を探った。

【方法】一般集団対象のオンライン調査で、自己評価、及び回答者をよく知る者からの他者評価が得られ、身体・精神疾患の現病・既往なく神経発達症・知的障害の診断を受けていない者を参加者とした。Autism spectrum screening questionnaire (ASSQ)で評価した自閉特性が高い 89 名を High 群、それ以外 408 名を Low 群とし、この 2 群を対象に次の 1.と 2.の解析を行った。なお、参照比較のため、1.には、後方視的な診療録確認による ASD 診断を有する 50 名を ASD 群として加えた。1.自閉特性(ASSQ で自己・他者評価)、適応機能、内在化症状(Adult self report (ASR)の下位尺度 Mean adaptive scale と Internalizing problem scale で各々自己評価)、QOL(World health organization quality of life assessment-brief version で自己評価)を群・性別の２要因分散分析、ストレングス(ASR と Adult behavior checklist の下位尺度 Personal strengths で自己・他者評価)を群・性別・評価者の３要因反復測定分散分析で比較。2. ストレングスに High 群の特異的傾向が見出されれば、適応機能、内在化症状、QOL 各々への寄与を性別の重回帰分析で検討。

【結果】1.自閉特性で ASD 群との有意差がなかった High 群は、適応機能・内在化症状・QOL 各々において、ASD 群と Low 群の中間の値を示した。ストレングスにおいて、自己評価では群の有意差がなかったが、他者評価では High 群が有意に高く、特に High 群女性では自己評価より他者評価が有意に高かった。2.ストレングスの他者評価・自閉特性(Low/High)・両者の交互作用を説明変数とし、適応機能・内在化症状・QOL 各々を予測変数とした重回帰分析を性別に行ない、他者から高く評価される High 群のストレングスの寄与を検討した結果、男女共に適応機能の向上にストレングス他者評価の寄与が認められたが、女性では、内在化症状の増悪に自閉特性とストレングス他者評価の交互作用が認められた。

【考察】主要な結果として、High 群女性がストレングスを他者から高く評価されやすいことが示され、これは診断閾下の自閉傾向の高い女児が向社会性を他者から高く評価されやすい旨の報告と矛盾しない。さらに、High 群女性に特徴的に見出された、他者から高く評価されるストレングスが適応機能を高め、一方で内在化症状を悪化させるという両義的傾向は、従来から日本の教育・臨床場面で指摘されてきた「過剰適応」との概念的類似が考えられた。本研究では、汎用性のある既存尺度を用い、自閉傾向の高い一般集団の女性の特徴的な適応のあり方を実証的に示したが、このような把握は、診断困難な傾向にある層への前臨床段階での理解と支援に有効なものとなりうる。

（論文審査の結果の要旨）

自閉スペクトラム症（ASD）の女性の診断困難と支援不足の懸念の一方、未診断で経過する自閉特性の高い人々に関する性別検討は少ない。本研究では、自閉特性が高い一般集団の人々のストレングスと適応の関連を性別に検討した。

一般集団の 497 名を自閉特性の高い 89 名（High 群）と 408 名（Low 群）に分け、２群の① QOL・適応機能・内在化症状・ストレングスの比較（①には参照比較で ASD 群 50 名を追加）、② High 群に特異的なストレングスが①で認められれば、QOL・適応機能・内在化症状各々への寄与を性別の重回帰分析で検討した。

結果、① ASD 群と有意差ない自閉特性を示す High 群では、QOL と適応機能が Low 群より低値、内在化症状が高値、ストレングスの他者評価（以下、[他]）が High 群女性で高値であった。② ストレングス[他]・自閉特性(Low/High)・前２者の交互作用を説明変数、QOL・適応機能・内在化症状各々を予測変数とした重回帰分析の結果、適応機能にストレングス[他]の正の寄与、内在化症状に自閉特性とストレングス[他]の交互作用を女性にのみ認めた。ストレングスを他者に高く評価される High 群女性の傾向は、適応機能向上の一方、内在化症状の悪化をきたす可能性が示唆された。

以上の研究は、自閉特性の高い女性の適応のあり方の実証的解明に貢献し、彼らの前臨床段階での理解と支援に寄与するところが多い。

したがって、本論文は博士（　医学　）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、令和　6　年　2　月　9　日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日：　　年　　月　　日　以降